

3. ゴボウの新しい病気‘ 根黒斑病’（情報）

[要約]

岡山県西南部において発生したゴボウ根部の黒変症状の一部は本邦で未確認の *Phoma exigua* によるゴボウ根黒斑病（仮称）である。

研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543
------	-------	-----	--------------

[背景・ねらい]

後月郡芳井町明治地区で特に連作した場合に発生するゴボウ根の肌が黒く変色する“黒かけ”または“黒柿”と呼ばれる症状について原因究明を行い防除上の資料とする。

[成果の概要・特徴]

1. 平成 14 年 2 月、後月郡芳井町明治地区において、3 月下旬～4 月播種、9～翌年 2 月収穫のゴボウで、根部に 1～数 cm、円形～楕円形、黒色の病斑を生じ、甚だしい場合には根部のほぼ全面が黒変する症状が確認された（図 1）。
2. 現地から診断依頼のあった標本の根黒斑症状から分離された菌は、室内接種試験においてゴボウ根に対し病原性を示し、病徴が再現された。
3. 分離菌株の菌叢、形態的特徴及び MA 培地上での NaOH に対する反応から本菌を *Phoma exigua* Desmaz. と同定した（表 1）。
4. 今回の持ち込み標本におけるゴボウ根部の黒変症状は *Phoma exigua* による病害（本邦では未報告）であることが明らかとなったので、病名としてゴボウ根黒斑病（仮称）を提案している。

[成果の活用面・留意点]

1. 本病害が現地で問題となっている症状の主因であるかどうかを確認する必要がある。

[具体的データ]



図 1 ゴボウ根部の黒変症状（最下段は健全根）

表 1 分離菌の形態

項目		ゴボウ分離菌(Pe6,Pe11)	Sutton の検索表 ¹⁾ による <i>Phoma exigua</i>
菌叢	形状 色	周縁部は半円の連続模様 赤色の色素を欠く	周縁部は半円の連続模様 赤色の色素を欠く
培地の色	NaOH に 対する反応	青緑色に変化する (滴下後 1 時間後には赤色に変化)	青緑色に変化する
分生子	大きさ 形状	4-6×2.5μm 樽型 単胞または 1 隔壁	5.5-10×2.5-3.3μm アンプル型から樽型 単胞または 1 隔壁
分生子の 形成		フィアロ型	フィアロ型
分生子殻	大きさ 形状	変化に富む 剛毛を欠き、嘴状突起を持たない 球形	変化に富む 剛毛を欠き、嘴状突起を持たない

1)Sutton, B. C. (1980) The Coelomycetes. Commonwealth Mycol. Inst., Kew. pp. 378-391

[その他]

試験研究課題・事業名：現地緊急対策試験

予算区分：県単

研究期間：平成 14 年度～

関連情報等：平成 13 年度岡山県病害虫発生特殊報第 3 号